

「重忠一花と座すー」（油彩）部分
山田道則画 個人蔵

愛され続ける
旭の名将

畠山重忠



はたけ やま しげ ただ
畠山重忠は、鎌倉時代に活躍した武将です。ぶ げい ひい
武芸に秀でるだけでなく、その人格や容姿、音楽的才能などにも優れ、鎌倉幕府を開くときに力を尽くしたため、将軍・源頼朝にたいへん信頼されていました。

しかし幕府内の権力争いに巻き込まれ、げん きゆう
元久2年（1205）鎌倉に向かう途中、旭区・鶴ヶ峰付近で、ほう じょう よし とき
北条義時を相手に討ち死にしました。地元の人たちは重忠をしのび、約800年を経た今も愛され、語り継がれています。

畠山重忠

心優しき力持ち

源平合戦の最中、一の谷（神戸市）に陣した平氏軍に、源義経の率いる源氏軍は、険しい崖を馬で駆け下りて攻撃しました。これが有名な「ひよどり越えの逆落とし」です。しかし重忠は愛馬をいたわり、馬を担いで崖を降りたといわれています。

源頼朝が信頼した武将

誠実な人柄で忠義を尽くし、多くの功績を高く評価されていた重忠は、頼朝が亡くなる際に枕元に呼ばれ「子ども達を頼む」と託されたと、伝えられます。

音楽の才能も併せ持つ

源義経の恋人静御前は、舞の名手でした。彼女が義経をしのび、鶴岡八幡宮で舞を舞った際、芸能に秀でた重忠は、銅拍子を打って伴奏を務めました。



畠山重忠

重忠の関連史跡① 畠山重忠公碑・遺烈碑

旭区には重忠の出来事を伝える2基の石碑^{せき ひ}があります。一つめは明治25年(1892)に旭区を中心とする地元の有志により^{こん りゅう}建立された畠山重忠公遺烈碑^{れつ ひ}です。二つめは昭和30年(1955)に重忠の没後750年を記念して、重忠の出身地・埼玉県深谷市と旭区鶴ヶ峰の有志が合同で建立した畠山重忠公碑です。

鎌倉時代の武士の活躍が、時代を超えて地元の方々に愛されていることが分かります。

鎌倉に向かう重忠軍はこの地で数万騎の北条軍と相対しました。

「万騎が原」^{ま き が ほん}の地名は、北条軍が数万の騎を構えたことに由来すると言われています。

碑は水道道が厚木街道を横断する場所に建っています。



左：「都筑郡都岡村鶴ヶ峰ノ六塚畠山重忠ノ古戦場 其十」大正・昭和前期 横浜都市発展記念館蔵

右：畠山重忠公碑（現在）



畠山重忠

重忠の関連史跡② 六ツ塚

討ち死にした畠山重忠をはじめ、一族郎党^{いちぞくろうとう}134騎を埋葬したと伝えられる6つの塚です。霊堂^{れいどう}となっている薬王寺^{やくおうじ}には重忠の霊がまつられており



命日である6月22日には、旭区の有志が中心となり毎年慰霊祭^{いれいさい}が催されています。

重忠の関連史跡③ 首塚・首洗い井戸

帷子川旧河道である「鎧の渡し緑道」^{よろい}は武士が鎧を頭上に担いで川を渡ったため「鎧の渡し」と呼ばれ、ここに重忠の首を洗ったとされる首洗い井戸^{くびあら}と、その首を祀ったという首塚^{くびづか}の伝説があります。

井戸はすでになく、標柱^{ひょうちゅう}のみです。



重忠の関連史跡④ 駕籠塚

畠山重忠の妻「菊の前」^{きくまえ}は、合戦の知らせを受け、駆けつけましたが、この地で重忠の戦死を聞いて悲しみから自害^{じがい}しました。亡骸^{なきがら}は駕籠^{かご}ごと埋葬されたと伝わります。

畠山重忠

重忠の関連史跡⑤ さかさ矢竹

重忠が矢を受けた時、「我が心正しければ、この矢に枝葉を生じ繁茂^{はんも}せよ」と言い、2本の矢を地面に突き立てました。

すると矢が根付き、毎年2本ずつ増え、この地に茂り続けたといわれています。



重忠の関連史跡⑥ 矢畑・越し巻き

合戦の際、重忠軍に放たれた矢が、まるで矢の畑^{やばたけ}のように一面にささったことから「矢畑」、またこの辺りで重忠が敵に取り囲まれたため、あるいは矢が腰巻^{こしまき}のように重忠を取り巻いたため、「越し巻き」と呼ばれるようになったと伝わります。現在は標柱のみ立っています。



重忠の関連史跡⑦ すずり石水

重忠が鶴ヶ峰に陣を構えた際に、この湧き水^{わみずすみ}で墨をすったといわれます。現在は湧き水を見ることはできず、標柱のみ立っています。